

福祉部会

優しさに触れた3年間

福祉部にかかわって

福6 - 福 芦原 耐子

気がつくとも3年間も福祉部とかかわりを持っていました。最初に福祉部を引き受けた時、後藤前々部長、柳内前部長をはじめとしていろいろな方の温かい励ましとご協力により、これならやっていけると安易に引き受けて3年間も経っていました。

今日も外出から帰ると、垂水養護学校の先生から日曜日にも拘わらず留守電が入っていました。きっと新しいボランティアの窓口となる係の先生が休日にも拘わらず電話を下さったのだらうと思いました。

そろそろキャンプの介助のボランティアの依頼が来る頃です。身の引き締まる思いがします。しあわせの村の「あおぞら」でのキャンプの介助や、生徒達がポニーに乗るため、車椅子での坂道を馬事公苑まで押します。

福祉の仕事は車椅子での介助が多いのです。やっと、上手に押したり引いたり出来るようになりました。真愛ホームの初詣、花見、夏祭り、入浴後の整容、すべて車椅子介助です。

探鳥から自然に接しよう

生3 環 中島 洋吉

「バードウォッチングを通して自然に接しよう」をテーマに、3月25日(土)環境未来館周辺で、環境学習講座が開かれました。都会から少し離れた未来館の周辺には沢山の野鳥を見ることが出来ます。

この日はスタッフを含め66名が参加、小春日和を思わせる陽気の中、ツクシも顔を出したあぜ道を歩きながら春の野外を楽しみました。親子たちは貸し出しの双眼鏡で、青空を飛び交う野鳥を追いかけます。「あの鳥、何というの」「この鳥

はセグロセキレイというの。きれいだね」とグループわの野鳥クラブの先生たちは質問攻めにあっていました。



双眼鏡で野鳥を追いかける親子たち

シルバーカレッジで習った筈なのにはじめは随分と戸惑いましたが、実践するうちにコツも覚え上手くなりました。どうぞ福祉部に協力しようと思われる方ご連絡下さい。自分が相手を通して見つめ直すことが出来るのではないかと、改めて気付きました。

知的障害を持っている子ども達とのケーキ作り、これもクッキーの会が中心となって作ります。こちら福祉部が大事にしているボランティアです。ケーキを作り終わって帰る際には、こども達と輪をつくり歌を歌って別れを惜しみます。ケーキ箱を大切に抱えて「又ね!」と、これも私の3年間で大切なことは何かを教えたボランティアの一つです。

振り返ると日常生活の中だけで過ごしていたらきっとこんな優しい人達に逢えなかったのではないかと思います。仲間の優しさ(男の人も、女の人も)にも触れ合うことも出来ました。

この3年間、いつも車椅子を押しながら、私の家族はこんな優しい私を見ることはないだろうなあ!と、変に自分に感心したり、自分を褒めたりして過ごして参りました。3年間ご協力下さいまして本当に有難うございました。

観察を終えたあと、みんなで観察できた野鳥の鳥あわせをしました。その後、もし鳥がいなくなったら自然はどのようになるだろうか などを中心に話し合いをしました。参加者たちは身近に存在する自然や、生きものの営みを感じ、自然を大切にすることを楽しみながら学びました。最後にこれから

の野鳥観察に役立ててもらおうと、観察ノート(探鳥マナー、野鳥の分類、観察の仕方)を配布しました。

頑張っています

建学の精神忘れずチャレンジ

音4 - 福 江田 正子

私は平成6年から「しあわせサポート in 北区」の一員として、しあわせの村内にある神港園の認知症患者の介助を続けています。翌年には阪神大震災でしあわせの村には仮設住宅が600戸余り建ったので、被災者の皆さんにモーニングサービスをして大変喜ばれました。

また平成12年にはリハビリ病院付属の老健施設「リハ神戸」がオープンしたのをきっかけに、私たちシルバーカレッジの先輩、後輩はじめ友人、知人に呼びかけて、新たに「グループリハ」(会員18名)を立ち上げました。入院患者のリハビリのお手伝いなどをさせて頂いていますが、昨年10月にはボランティア5周年を記念して、記念誌250冊を発刊しました。

来年はグループわの設立10周年ですが、私たちグループもイベント企画に参加させていただきたく思います。シルバーカレッジで学んだ建学の精神「再び学んで他のために」を今こそ発揮する時です。この4月に卒業された方々も是非、建学の精神を忘れずチャレンジしてくださいね。

編集後記

この春ほど地球温暖化が顕著に現れた年はないと思います。サクラの開花が早いとの予報であったが、寒気の影響で普段の年より遅いくらい。それに山つつじがサクラと一緒に咲き始めたり、タンポポが早や綿帽子をつける等植物への影響も見逃せません。

ヨーロッパでは集中豪雨による水害、モスクワでは異常寒波による死者も出ています。国内でも東北、北陸地方では豪雪による被害は大きくなっています。

筆者はシルバーカレッジの生活環境コースで学んだ事を活かして、いま環境未来館で環境問題のコーディネイトをしています。見学に訪れる自治会、婦人会の人たちは異口同音に「見学に来てよかった。ごみを減らす工夫を真剣に考えます」と。市民一人ひとりが身近な環境の変化を感じ取って行動を起してほしい。(ニシ)